

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・66〉 いわき市立入遠野小学校
＜実施日＞	平成28年7月19日（火）
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は（ ）に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他（ ）
＜実践内容＞	1. 本時のねらい：放射線から身を守る方法について考えることができる。 2. 学習の流れ （1）東日本大震災によって起こった原発事故について、福島県のHP「除染情報プラザ」よりダウンロードした紙芝居や「小学生のための放射線副読本」を使いながら、振り返らせる。 （2）原発事故によって放出された放射性物質が風に乗って広がり、雨や雪と一緒に地面や屋根、木などにくっついたこと、また、そこから放射線を出していたことをおさえる。 （3）外部被曝、内部被曝について理解させる。 ※ 原発事故が起きる前から、身近に放射線があることを理解させるとともに、「たくさん浴びる」事が問題であることをおさえる。 （4）ペアで「放射線から身を守る方法」について考え、発表させる。
（5）まとめ	
＜成果＞	○ 震災時のことを覚えている児童はほとんどいなかったが、資料や紙芝居など、視覚に訴える教材を使ったことで、興味をもって学習に取り組めた。 ○ レントゲンなど、放射線が人工的に生活の様々な場面で活用されていることを知り、「放射線」についての知識を増やすことができた。 ○ 受ける放射線の量を減らすために、自分がどんな行動をとればよいのかを考えることができた。
＜課題＞	● 比較的、線量の低い地域ということもあり、放射線に対する意識や関心をもたせ続けることが難しい。 ● 今回は教室・昇降口2カ所のための線量測定になってしまったので、次回は校庭や周辺地域など、いろいろな場所で線量を測定し、その結果をもとに子どもたちに考えさせたい。
資料作成担当者職（教諭）氏名（齋藤 美幸）	学校電話番号（89-2511）

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日（月）までに電子メールで送信してください。
（送信先：kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp）